

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600194		
法人名	株式会社アクティブ・ケア		
事業所名	グループホームみのり新中野 はすかつぶ館		
所在地	苫小牧市新中野町1丁目3番20号		
自己評価作成日	平成30年3月1日	評価結果市町村受理日	平成30年3月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail.2017.022_kan=true&JigyosyoCd=0193600194-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様と職員の会話も多く、「笑顔の絶えない明るく家庭的なホーム」作りを心掛けている。併設した小規模多機能居宅介護との交流、季節ごとの行事、近隣公園への散歩、買い物、外食、地域のお祭りへの参加、地域の幼稚園との交流等、利用者様の希望に添った支援ができるよう、ご家族様、ボランティア地域の方々の協力を頂き毎日元気に笑顔のある生活を送ることができるよう努力している。運営推進会議も小規模多機能事業所と合同で実施しているため、単体で行うより活発な意見交換が行われている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年3月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームみのり新中野」は、苫小牧港近くの静かな住宅地に立地している。小規模多機能を併設している事業所で、運営推進会議や避難訓練、年間行事などを通してお互いに交流を深めながら地域に根ざした運営に取り組んでいる。職員は理念を共有し、一人ひとりの生活スタイルを大切に、その人らしく笑顔で過ごせるように温かなケアを行っている。個人連絡ノートを活用して、各利用者の支援方法などを職員それぞれの視点で活発に意見交換して細やかに対応している。介護計画は可能な限り家族の参加を得てカンファレンスを行い、率直な意見や意向を反映させながら更新計画を作成している。前回の外部評価の課題にも積極的に取り組み、新たにセンター方式のB-3シートを活用して各利用者の思いや意向の把握に努めている。職員採用時に看護師による看取りケア研修を実施すると共に、その都度適切な対応について全職員で学びを深め、前向きに看取りケアに取り組んでいる。看取り後は各職員が個別に振り返りのレポートを作成して経験をその後のケアに活かしている。管理者は、新たに小学校との交流を模索するなど、積極的に地域との交流を深め、「チームケア」と「寄り添いケア」を目標に、常に向上心を持って職員と共によりよい事業所を目指して運営に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(はすかつ館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着 型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所、リビングに掲示し常に意識できる環境に努め、サービスの向上に努めている。	「地域のぬくもりの中で、いつも元気に笑顔のある生活を支援し続けます」という理念を日曜日の申し送りで唱和し、実践につなげている。ケアの方向性が分からなくなった時などに理念に立ち返り、全職員で共有して適切なケアを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入、地域のお祭り等に参加、防災訓練等に協力して頂き、交流を図っている。	利用者と一緒に地域の夏祭りに参加している。楽器演奏や紙芝居などのボランティアが年数回訪れたり、敬老会に幼稚園児が来訪して遊戯を披露している。新たに小学校と交流したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等でホームとしての取り組みの状況や日常の様子を報告している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度会議は継続。小規模が主体となり市役所福祉課の方の協力を得て市のゴミ減量作戦の取り組みや成年後見人の説明など学びとなる機会も増やしている。	苦小牧市の新しい事業や行事などの情報をもらったり、家族からも率直な意見が出されている。会議案内を送付して電話で個別に出欠を確認しているが、家族の出席は固定化しつつある。議事録が不足している回もあるので整備したいと考えている。	テーマを記載した会議案内を送付して、参加できない家族の意見なども事前に聞き取りながら会議に活かすよう期待したい。外部評価についても会議で取り上げることを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的な生活支援課の面談のほか、介護福祉課へは運営に関しての相談を随時行っている。2ヶ月に1度の運営推進会議にも出席して頂き、行政の立場から制度の説明をして頂くなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。	管理者は、介護保険の更新や生活支援課との情報交換などで2か月毎に市役所を訪問しており、その都度担当者と話しをしてアドバイスなどを受けている。分からないことがあれば電話で相談して確認することもある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は玄関の鍵は開錠している。また個々の状況に応じ、安全、安心に過ごすことができるよう生活環境の整備や見守りの強化で危険の防止に努め、拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人共通のマニュアルを整備し、「行動指針」に禁止の対象となる具体的な行為11項目を記載して事務所などに掲示している。年1回、禁止行為11項目やスピーチロックについて内部研修を実施している。利用者が外出しようとした時は、行動を制止しないで一緒に出かけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等にも参加、会議の場にて意見交換、情報の共有を行い、虐待が見過ごされることのないよう取り組んでいる。		

グループホーム みのもり新中野

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(はすかつ館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について、必要性のある利用者様へ活用できるよう勉強の機会を設ける。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には利用契約書、重要事項説明書を読み上げ、十分に説明し理解、納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱設置のほか、運営推進会議で意見を頂いている。また、面会時に要望等お聞きするよう努めている。	面会時やカンファレンスで意見や要望を聞き取っている。些細なことも個人の連絡ノートに記入して情報を共有している。今後は、家族の意見や職員の気づきを別用紙に記入したいと考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	連絡ノートの活用、毎月のユニット会議で意見交換を行っている。年に2回管理者と職員の面談を実施、意見、提案を聞く機会を設けている。事業所の意見は本社会議にて吸い上げるようにしている。	利用者個人の連絡ノートを活用して、ケアや対応について職員間で意見交換している。毎月、通信や週間報告書作成、行事企画などを職員が交代で担当している。年2回本部次長との面談もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況、努力や実績を把握し、向上心を持って働けるよう支援している。資格取得支援制度も設けている。処遇改善加算Ⅰの取得にて適切に賃金改善に当てている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での管理者研修、定期的なスタッフ研修の他、資格取得支援制度も設けている。また法人外での研修通知を回覧し研修を受ける機会の確保、先月は認知症		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内外の研修や市のグループホーム連絡会の研修に参加し、交流の機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(はすかつ館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様の情報を基に生活歴の把握に努め、利用者様の要望をケアに反映できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始までの間にそれまでの経緯や不安、要望について見学に来られた際や面談の際に出来る限りの範囲でお応えする努力はしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人様、ご家族様の状況を把握し意向を確認しながら適切な支援を提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎月のユニット会議で入居者様の身体状況を確認し合い、出来る事難しくなったことを見極めながら支援法を検討している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事、運営推進議の呼びかけや面会時、電話、通信でホームの様子をお伝えし、共に支えていく関係を築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人が気軽に面会に来て頂けるよう、ご家族にも協力頂き支援に努めている。	近所に住んでいた方や昔からの友人が来訪する利用者もいる。親族が経営している喫茶店に職員が送迎したり、家族と一緒に墓参りや買い物、外食などに出かけている。自宅に定期的に帰る方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を見極めながら、孤立することがないように配慮している。時には職員が介入し支え合える関係を築けるよう支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(はすかつ館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談、協力の意思をご家族様へお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の関わりの中で、会話、行動、表情等から希望、意向を把握できるように努めている。ご家族様、職員間の情報も取り入れ「本人本位」に検討している。	会話やいつもと違う言葉、表情などから思いや意向を把握している。センター方式のB-3シートを新たに使用して、趣味や嗜好などについて情報を集約して定期的に追記や更新をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族からの情報を収集している。日々の関わりの中で知り得た情報は職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のできること、支援があればできることを職員間で共有し、現状に適したケアに努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員、他職員、看護師からも意見を出してもらい定期的に話し合い、見直しを行っている。ご家族様からも意見、要望を頂き現状に即した介護計画作成に努めている。	利用者担当職員を中心に評価を行い、計画作成担当者が3か月毎に介護計画を作成している。家族も6か月毎にカンファレンスに参加している。評価に活かせるように、サービス内容に沿って変化や課題をケース記録に記入したいと考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、職員間での情報共有により現状の把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化に応じて、ご本人、ご家族様のニーズに対応できるよう考慮し、柔軟な支援できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティア・ひっよとこ踊り・焼鳥ボランティア・園児の来訪など多くの交流が作られています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	かかりつけ医への受診支援を行っている。利用者様、ご家族様の希望に応じ協力医による往診を受ける等適切な医療を受けられるよう支援している。	月2回の往診体制を整え、その他かかりつけ医の受診は家族が支援している。健康状態に変化があれば看護師が書面で伝えている。専門医の受診も家族対応が難しい時は事業所で支援している。医療記録は個別に記録している。	

グループホーム みのもり新中野

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(はすかつ館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤にて看護師配置、利用者様の健康管理や医療面での相談、助言を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は職員が面会に行き、ご本人様の状況の確認を行っている。また、病院側と情報交換、相談を行い関係作りにも努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期における指針を定め、ご家族様への説明、同意を得ている。昨年は2名を看取り本年1月にも看取り最期まで家庭的な雰囲気でも過ごされました。	重度化と看取りの指針に沿って、利用開始時に事業所として可能な対応について説明している。職員採用時に看護師が看取り研修を行い、看取りを実施する場合もその都度研修を行っている。看取り後は個別に振り返りのレポートを作成している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応についてのマニュアルを整備し周知徹底を図っている。看護師によるAEDの使用方法や急変時の対応についての勉強会を実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力により定期的に日中、夜間想定の方針訓練を行っている。訓練時には町内会、ご家族様にも参加、ご協力を頂いている。町内会の「災害対策についての説明会」にも参加しており、備蓄品も備えている。	消防署の協力を得て、小規模多機能と合同で日中の火災を想定した避難訓練を実施し、夜間の火災を想定した自主訓練も行っている。建物内の危険箇所を確認している。職員の救急救命訓練の受講を計画的に進めて行く予定である。	地震などを想定して、各利用者に応じたケア別の対応について話し合うよう期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けのタイミング、声の大きさ、周りの状況に配慮し一人ひとりに合わせた言葉掛けや対応に努めている。	呼びかけは「さん」づけとし、職員は1～2年毎に接遇などの勉強会を行っている。ファイルを見えないように保管し、申し送りは部屋番号で行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が答えやすい、選択できるような声掛けの工夫をし、自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせ、その日の体調や気持ちに配慮しながら、希望に添った過ごし方ができるように支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理美容を利用したり、着たい洋服を選んで頂けるよう支援している。お化粧、髭剃り等自由にその人らしい身だしなみやおしゃれを楽しめるよう支援に努めている。		

グループホーム みのり新中野

自己評価	外部評価	項目	自己評価(はすかつ館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食前後のテーブル拭き、後片づけ等それぞれにできることを職員と共にしている。広告や料理の本等でコミュニケーションを図り、食事を楽しんで頂けるよう工夫している。	本部の献立をもとに食材が提供され、調理法や味付けに変化を加えている。利用者が盛り付けや配膳、食器拭き、おやつ作りを手伝っている。時には出張寿司や外食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を記録し、把握している。一人ひとりの状態に合わせた形態、味付けに工夫し、摂取量を確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに声掛けし、本人の力に応じた口腔ケアを行い清潔保持に取り組んでいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握できるよう記録し、トイレでの排泄を基本に考え一人ひとりに必要な支援を行っている。	ケース記録に排泄状況を記録し、パターンを把握している。トイレでの排泄が難しい方も、1日2回はトイレで排泄できるように支援している。パッドなどやポータブルトイレの使用など、利用者の状況に合わせて使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンを把握し、声掛け等により確認、記録している。飲食物の工夫や運動等で個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の希望、状態に添って行っている。また入浴されていない期間や希望があれば要望に添い支援している。	各利用者が午後を中心に週2回程度入浴できるように支援している。誘うタイミングの工夫や家族の協力を得て、入浴につなげている。1階には天然温泉の浴槽を設置している。利用者は自分のペースで入浴ができています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握し、その時々状況に応じて自室で休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬情をファイルし職員が確認できるように整備している。服薬は職員2名での声出し確認を徹底、更にご本人様に声掛け確認し誤薬防止に努めている。服薬の症状の変化は記録し、職員間で情報把握をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や力、意欲に合わせ役割や出来ること、楽しみ等張のある日々を過ごせるよう支援をしている。		

グループホーム みのり新中野

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(はすかつ館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に添って買い物、散歩等戸外に出掛けられるよう支援に努めている。外食、大型ショッピングセンターでの買い物等、車椅子利用者様も一緒に出掛けられるよう車での外出も行っている。	日常的に周辺を散歩したり、中庭で外気浴を行っている。車椅子の方も一緒に出かけている。年間行事では、サンガーデンでの花見、樽前神社の初詣、とまこまい港まつり、うどん店での外食、紅葉ドライブなどに出かけ、楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際には職員が付き添い、会計を自身で行って頂く等の支援を行っている。一部の方はご本人様、ご家族様と話し合いをし、自己管理されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じ、いつでも電話ができるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、リビング、廊下等に既設の移り変わりが感じられる飾り物をしたり、利用者様、職員が作った作品を飾る等明るく、居心地の良い雰囲気作りに配慮している。	共用空間は広く、窓が大きく明るい。トイレや浴室も広く、2か所のトイレは居間部分から見えにくい場所にある。エアコンや加湿器により快適に過ごすことができる。壁には折り紙作品やカレンダー、大きめの時計などがあり、植物やぬいぐるみ、絵本、健康器具なども置かれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配置に工夫し、くつろげる環境作りに配慮している。気の合った者同士が談話したり、思い思いに過ごせる居場所作りを工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内家具等は使い慣れた物、好みの物を持参して頂けるようご家族様と相談しながら、ご本人が安心し、居心地良く過ごせる環境作りに配慮している。	居室は備え付けのキャビネットなどがあり、利用者がテレビや鏡台、タンス、ベッドを持ち込んでいる。壁には折り鶴の飾りや家族の写真を飾っている。戸棚を仏壇代わりに使っている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室等場所の目印となる札を付けている。エレベーターの設置、トイレ、廊下、浴室に手摺りを設置、安全に、できるだけ自立した生活ができるよう工夫している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600194		
法人名	株式会社アクティブ・ケア		
事業所名	グループホームみのり新中野 ななかまど館		
所在地	苫小牧市新中野町1丁目3番20号		
自己評価作成日	平成30年3月1日	評価結果市町村受理日	平成30年3月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail.2017.022_kani=true&JigyosyoCd=0193600194-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様と職員の会話も多く、「笑顔の絶えない明るく家庭的なホーム」作りを心掛けている。併設した小規模多機能居宅介護との交流、季節ごとの行事、近隣公園への散歩、買い物、外食、地域のお祭りへの参加、地域の幼稚園との交流等、利用者様の希望に添った支援ができるよう、ご家族様、ボランティア地域の方々の協力を頂き毎日元気に笑顔のある生活を送ることができるよう努力している。運営推進会議も小規模多機能事業所と合同で実施しているため、単体で行うより活発な意見交換が行われている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎週日曜の朝、申し送りの時に勤務者は理念を唱和し確認している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域のお祭り等に参加している。町内会から防災訓練等に協力頂き、交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等でホームとしての取り組みの状況や日常の様子を報告している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、ホームの取り組みに関する報告や意見交換を行い、サービスの向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には介護福祉課職員に出席頂いている。ホームの活動状況等の報告を行うと共に、必要時の助言を頂き協力関係を築いている。制度的な部分でも行政の立場から詳しい説明をもらっている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間での勉強会を実施、全職員が意識してケアに取り組んでいるが、外部の研修にも積極的に参加していきたい。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間での勉強会を実施、「不適切なケア」に対する意識が希薄にならないよう努めているが、外部研修にも積極的に参加していきたい。		

グループホーム みのもり新中野

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について、必要性のある利用者様へ活用できるよう勉強の機会を設ける。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には利用契約書、重要事項説明書を読み上げ、十分に説明し理解、納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置、契約時には外部相談機関の説明を行うと共に、面会時、電話にてご家族様の要望をお聞きし、意見を反映させていけるよう努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	連絡ノートの活用、毎月のユニット会議で意見交換を行っている。年に2回管理者と職員の面談を実施、意見、提案を聞く機会を設けている。各事業所からの意見は本社会議にて吸い上げている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員処遇改善加算Ⅰの算定をしており適切に賃金改善に当てている。職員の勤務状況、努力や実績を把握し、向上心を持って働けるよう支援している。資格取得支援制度を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での管理者、役職者研修、定期的なスタッフ研修の他、資格取得支援制度も設けている。また法人外での研修通知を回覧し研修を受ける機会の確保、自主希望による受講を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームで作られている「グループホーム連絡会」を通じ同業者と交流する機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居面談の際の情報収集、センター方式の記載をご家族様にお願いし、その情報を基に生活歴の把握の努め、利用者様の要望をケアに反映できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始までの間にそれまでの経緯や不安、要望について話を聴く機会を設け、話しやすい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に十分に本人、ご家族の意向を確認し、適切な支援を提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と職員が共に楽しみながら、ご本人様のやりたいこと、できることを見つけていくよう努め、関係作りをしている。家事などの役割も一緒に行えるように務めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時にはご本人の近況をお伝えし、特変があった際には電話連絡する等、常にご家族様とコミュニケーションを取るよう機会を設ける心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の友人、知人が気軽に訪ねられようご家族様にもご協力頂き支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操、レクリエーション等全員が参加できる様声掛けし、職員が利用者間の仲立ちを行いながら皆で楽しめるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談、協力の意思をご家族様へお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月1度のユニット会議で入居者様のニーズ、行動や発した言葉をアセスメントし意向の反映に努めている。すぐに実行できることは即座に対応できるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人ファイルやご家族様にセンター方式の記入をお願いするなど情報を頂き、細かな情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴や性格等の事前情報を元にしながら、現在の生活状況、心身状況等を的確に把握できるように記録している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々入居者様やご家族様と情報交換、コミュニケーションを図り、月1度の会議で課題と対策を検討し介護計画として立案している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人の言動や介護計画に沿った支援を記録しプランの実践、評価に役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化に応じて、ご本人、ご家族様のニーズに対応できるよう都度支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様が安全、安心した暮らしを楽しむことができるよう、買い物、外食等の機会にも事故等が起きないよう職員がしっかり付き添っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診支援を行っている。利用者様、ご家族様の希望に応じ協力医による往診を受ける等適切な医療を受けられるよう支援している。		

グループホーム みのもり新中野

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤にて看護師配置、必要時相談、助言を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は職員が面会に行く等し、ご本人様の状況の確認を行っている。病院、ご家族と情報交換、相談を行いながら関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期における指針を定め、ご家族様への説明、同意を得ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応についてのマニュアルを整備し周知徹底を図っている。また会議にて看護師による急変時の対応についての勉強会を実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力により年2回、日中、夜間想定防災訓練を行っている。訓練時には町内会、ご家族様にも参加、ご協力を頂いている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ時の誘導や声掛けには特に注意し、入居者様のプライバシーや羞恥心へ配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択できるような声掛けや、準備をして入居者様の希望に添えるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの思いやペースを把握し、それぞれの希望に応じた生活ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びや整容等個々人の希望に添えるよう支援している。		

グループホーム みのり新中野

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食後にお盆拭きを手伝って頂いたり、食事作りを行い一緒に準備している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は個々人に合わせた量を提供し、形態も刻みやトロミ等、個々人に合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施。自身でできない方には職員の支援にて口腔内の清潔を保持している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録の排泄チェック表に記載、排泄パターンを把握したうえで、個々人に合わせた排泄支援を実施している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用、個々人に合わせた排泄支援を実施している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午後からの入浴となっているが、できるだけ利用者の希望、状態に添って行っている。また入浴されていない期間や希望があれば要望に添い支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々人の身体状況に合わせ、ベッドで臥床して頂く時間や、ソファでくつろいで頂く等行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用は個別に薬情ファイルに保管、全職員に周知している。服薬時には飲みこぼしがないよう職員が見守りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や力、意欲に合わせ役割や出来ること、楽しみ等張のある日々を過ごせるよう支援をしている。お酒の提供など。		

グループホーム みのもり新中野

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に添って散歩や買い物等に出掛けられるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭はホーム預かりだが、買い物の際には職員が付き添い、会計を自身で行って頂く等の支援を行っている。管理が出来そうな方はご家族と相談し、数千円単位で持っている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じ、いつでも電話ができるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様や職員の作品を飾る等明るい雰囲気配慮している。季節感を取り入れる等の工夫もしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	新聞を読んだり、趣味を楽しんだり気の合った利用者様同士で談笑できるよう席の配置を工夫、くつろげる環境作りに配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の写真や仏壇を含め、馴染みのものや使い慣れたものを持ってきて頂き、ご本人様が安心して居心地よく過ごすことができるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子や歩行器を使用しての移動もできるよう十分なスペースが確保されている。リビングや廊下の歩行スペースには極力物を置かないよう配慮している		

(別紙4-2)

目標達成計画

事業所名 グループホーム みのり新中野

作成日：平成 30年 3月 21日

市町村受理日：平成 30年 3月 23日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	テーマを記載した会議案内を送付して、参加できない家族の意見なども事前に聞き取りながら会議に活かすようにしたい。	小規模と連携し、テーマを決め、参加できないご家族様にも興味を持っていただけるようにする。	アンケート形式をとり、ご家族の声を聴かせていただけるようにする。	6か月
2	35	地震などを想定して、各利用者に応じたケア別の対応について話し合う。	色々な場面を想定し、マニュアルを作成する。	職員間で話し合い、いろんな場面でのケア方法をマニュアル化していく。	6か月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。